



第63号

2019年5月15日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団  
障がい者総合福祉施設アガペセンター  
〒252-0002 座間市小松原2-10-14  
TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス  
<http://www.agape-jcws.com>

## 新年度を迎えて

アガペセンター長

田中 誠一



守る大切さを伝えていきます。

二つ目は、前年度末に定年等による退職者、転勤や異動に伴う職員の後任者を迎えることです。職員は法人、アガペセンターの大切な仲間であり、センターのさまざまな事業を支え推進する人財です。法人の理念・ヴィジョン・ミッションを理解し、「共に生き、共に歩み」の人財育成です。

三つ目は、事業計画に基づく事業の遂行です。二〇一九年度の事業計画の特徴は、

時季的には、花の春を送り心と目に優しい緑の春を迎え、アガペセンターの木々や花壇の花も暖かな陽光を受け、それぞれがはなびらや新緑で自己主張を競っています。

今回は、表題にある「新年度を迎えて」の原稿依頼をいただき、皆様のお手元に届く五月頃をイメージしてペンを進めるこどしました。

さて、出会いの季節でありますアガペセンターの新年度は、三つの使命があると考えております。

一つ目は、特別支援学校並びに専修高等学校からの卒業生と在宅からの利用者を新たに迎える就労支援事業所の責務です。利用者さんの願う会社に就職することを目的としていますが、仕事を継続するためには、人として、社会人としてのルールを知り、決まりを

①アガペ第1作業所「就労移行支援・就労継続支援B型事業」、アガペ第2作業所「就労移行支援・就労継続支援B型事業」の統合です。同一敷地内に同じサービスを提供する施設（事業所）が複数ありますので、アガペ作業所として「就労移行支援・就労継続支援B型」に「就労定着支援サービス」を付加した施設として統合する事です。

②アガペ壱番館「施設入所支援・生活介護」の利用定員変更です。国の障がい者政策の軸が地域生活にシフトしていることと、全国的な介護職員不足も深刻な課題であり、利用者に寄り添つた支援を継承したく定員変更を行います。

③アガペ壱番館本館（一九九九年開設）の冷暖房機器を更新します。開設後二十年間使用した機器も日々の使用による経年劣化が進み、修繕に必要な

部品の確保も困難な状況となり、利用者によっては障害特性から体温調整が苦手な方もいらっしゃるため、新たな機器に更新をしてまいります。なお、アガペセンターの核となる施設は、「アガペ作業所、アガペ壱番館、アガペサポートセンター」であり、これら施設の維持・管理に引き続き努めてまいります。

また、アガペ壱番館とアガペサポートセンター事業「通所生活介護事業（通称ハンモック・集）、総合相談室」が開設から二十周年、座間市からの委託事業であります児童発達支援事業「サニーキッズ」が委託後十周年の節目となりました。今日まで運営にご尽力とご協力を賜りました関係者に心より感謝を申しあげます。

昨今の障がい福祉サービス事業を実施している社会福祉法人は、構造改革に伴う株式会社等の参入から社会的に厳しい立場にあります。アガペセンターは、利用者と地域のために、変えてはいけないこと、変わらなければいけないことを見極めて確かな歩みをすすめてまいりますので、引き続きのご指導をお願いいたします。



# 壱番館二十周年～あたりまえへの挑戦～

前壱番館館長 小田中 博志

アガペセンターの移り変わりを二十年近く見てこられ、二〇一九年三月に退職された小田中博志アガペ壱番館前館長より壱番館二十年の思いをご寄稿いただきました。

この度アガペ壱番館（旧・療護施設）は、一九九九年四月の開設から二十周年を迎えました。これまで関係者の皆様からは一方ならぬご支援をいただき、心より感謝を申しあげます。また、開設以来ご利用いただいております二十四名を含むすべての利用者の皆さん、ご家族、職員一同、この時を迎えられることをともに祝したいと思います。

開設当時を振り返りますと、壱番館二十年の歴史は、利用者の皆さんおよび職員の創意とチャレンジの歴史であつたかと思います。リフト付車両というものがまだアガペセンターに一台しかなかった時代、リフターや環境制御装置（ECS）などの介護機器類はまだ目にも新しい食事介助マシンのデモンストレーションで顔前に迫るフォーケに恐怖を感じたように、使用すること自体がまだまだチャレンジの域にあつたと言えました。

忘れてならないのは、入所している三割もの利用者さんが、センター内併設の作業所から提供を受け毎日仕事をしていったということ。また、その他にもプール、海水浴、コンサー

ト、野球観戦、買物外出とさまざまな機会が創出され、それらが今に至るアクティビティに繋がっていると

いうことです。

開設当初に発足した利用者自治会では、ボランティア感謝会を準備から当日まで利用者さんの力でやり遂げたこともあります。

利用者さんも職員もまだ怖いもの知らずで、冷や汗が浮かぶようなことをかりでしたが、今では懐かしくも晴れやかに当時の皆さんとの表情や情景とともに想い起こすことができます。

その後、地域での自立生活を希望する利用者さんが生活した「アリビング」（二〇〇五年南館増設時）の開設なども経て、そのチャレンジ精神の源には「当たり前の生活を自分の力で切り拓きたい」という皆さんのがつたことに改めて気づかれます。

元号が変わり、東京オリンピックが来年に迫ろうとしている現在。今もチャレンジ精神の火を灯した利用者の皆さん的眼差しの先にある「当たり前の生活」が叶えられますよう、どうか二十一年目からのアガペ壱番館にも引き続きのご支援をお願い申しあげます。



二〇二二年度より二〇二八年度までサポートセンター施設長として就任しておりました元田勲施設長よりサニーキッズ十周年の思いを語っていただきました。

※二〇十九年度より壱番館館長に就任



座間市より業務を受託し、今年で十年を迎えます。一九七一年にサニーキッズの前身となる座間市生活訓練会が開始され、四十八年が経過します。歴史を重んじながらも、法人理念である「共に生き、共に歩み」実践を使命とし、運営してまいりました。民間への委託は利用家庭にとって大きな変化であり、当時多くの不安の声が上げられましたと記憶しています。あれから十年が経ち、今では希望や期待が寄せられるようになりました。その声に支えながら、歩みを進めてこられたことに大きな喜びを感じます。

制度の変遷とともに、市内・県央圏域の児童福祉事業所が増加し、その内容も多岐にわたります。通

## 座間市サニーキッズ 委託十年を迎えて

前アガペサポートセンターII施設長 元田 勲



これからも私たちが、子どもたちやそのご家庭の「勇気と元気の源」であり、皆さんとの「歩みとチャレンジを見守る存在」であり続けられるよう、この場所で歴史を重ねてまいります。

員として、安心して生きられるような、共生社会を目指します。今日までお支えいただき、皆様へ心より感謝申し上げ、今後ともご支援のほどお願いいたします。

昨年九月一日に岡本雄一郎さん、今年一月十六日より安齋正知さん、そして四月一日に五名の新入職員を迎えました。活躍が期待される皆さんに、  
① 趣味  
② やる気スイッチについて聞いてみました。

## 新人紹介



山田 恵  
南館生活支援課



大渕脇 佳太  
本館生活支援課



利一 紗花  
南館生活支援課



安齋 正知  
本館生活支援課



岡本 雄一郎  
本館生活支援課

② やる気スイッチ  
① 料理  
② おいしい  
① 映画鑑賞

② 十分な睡眠  
① 音楽鑑賞  
① 外国調べ  
② 音楽を聴くこと

① 車いじり  
② たくさん寝ること  
① 義理  
② 歯磨き

さきげ、植物や動物と一緒に生きている喜びを分かち合っています。

春風が心地よい季節がやってきました。動物たちは春の訪れを喜び、いきいきしています。美しい花々も開き、草木の緑も深まつてきました。まるで、植物たち、動物たちが歌を歌っているかのようです。私たちの歌声も合わせていきたいものです。「アガペ聖書の会」では、美しい自然、活発な動物、私たち人間をお造りになられた神様を讃美しています。その中で、造り主なる神様に感謝を

## 共に生きる

高座教会 宮城 献

「主よ、わたしたちの主よ、あなたの御名は、いかに力強く、全地に満ちていることでしょう。天に輝くあなたの威光をたたえます。」  
(詩編八編二節)



渡部 由紀  
もくせい園 看護師



椎葉 真由美  
南館生活支援課

① 友達と飲んだりすること  
② 美味しいものを食べる  
① 神社めぐり  
② クレープ

# 活動紹介

生活支援員 佐藤 千尋

もくせい園では利用者さん一人ひとりの尊厳を尊重し、その人が有する可能性と力を最大限引き出し、それらが発揮できるよう支援し、利用者さんの自己実現を目標に日々取り組んでいます。今回は私が担当している午前の活動の紙すき作業と、午後のプログラムの調理について紹介したいと思いま

す。

もくせい園では個々の能力に合わせた組編成が行われています。主に私が担当している一、二組では牛乳パックを材料にした紙すき作品を作っています。利用者さんはそれぞれ担当している工程があります。牛乳パックの表面を剥がす方、表面を剥がした牛乳パックの芯の部分を皆がちぎりやすくするため、柔らかく揉んでくれる方、ちぎる音が好きな方、紙ちぎりを何度も行う方、個性豊かな作業風景です。

もくせい園では個々の能力に合わせ、利用者さんが主体となつて行えます。

## 紙すき作業

もくせい園では個々の能力に合わせた組編成が行われています。主に私が担当している一、二組では牛乳パックを材料にした紙すき作品を作っています。利用者さんはそれぞれ担当している工程があります。牛乳パックの表面を剥がす方、表面を剥がした牛乳パックの芯の部分を皆がちぎりやすくするため、柔らかく揉んでくれる方、ちぎる音が好きな方、紙ちぎりを何度も行う方、個性豊かな作業風景です。

もくせい園では個々の能力に合わせ、利用者さんが主体となつて行えます。

もくせい園

活動報告



## 調理

事前に午後のプログラムの選択表を本人またはご家族に確認し、調理を選んだ利用者さんが月に一回参加しています。献立は、利用者さんが作りやすく、季節のものを取り入れて毎月私が考えています。

当日は、始めと終わりの号令をしてくれる方、使う電子機器のスイッチを押してくれ方など役割分担を決め、参加意欲を持つてもらえるように取り組んでいます。また、

支援員と一緒に包丁で野菜を細かく切ったり、ボウルの中身を利用者さん同士が協力して混ぜる場面など積極的に取り組む様子も見受けられます。そして、自分たちが作った料理を食べた時の表情は、とても満足そうに感じられます。

## もくせい園の20歳！



るよう、必要最低限の支援をしています。

# 同窓生は今



佐々木 香織 さん

## 現在のお仕事について教えてください。

私は、社会福祉法人プレマ会「みなみ風」という高齢者施設で清掃の仕事をしています。

施設内の灰皿やトイレの掃除、た車いすなどを磨いたりします。は九時からですが、早めに出勤して朝まで一息入れてから仕事に取り組んでいます。

## 働いてみてどうでしたか？

最初はミスをしたり、覚えることが多くて大変でしたが、職員の方に相談したり、メモを取つて確認しながら取り組みました。お給料がたくさんもらえてびっくりしました。

## 働いて嬉しかったことはなんですか？

ボーナスをもらつて、美容院に行ったり、おしゃれすることに使つたり、両親に生活費を渡す事ができたのが嬉しかったです。

## アガペの利用者さんに一言お願いします。

わからないことがあつたら自分から相談したり、メモを取るといいと思います。みなさん頑張ってください。

# ご支援ご厚意に感謝いたします

『献金者』二〇一八年四月一日から二〇一九年三月三十日までのご献金分

高橋 武弘様 新宮 紗綾子様 水口 建子様  
斎木 満恵様 かとうれい子様 中山 善夫様  
山田 耕二様 山田 登美子様 小田中 博志様  
匿名希望者様二名

ご指定いただいた寄付金は、アガペセンター設備機器充実のため有意義に活用させていただきます。

『寄贈者』コストコホールセールジャパン株式会社様  
相模中央交通株式会社様  
ご寄贈いただきましたビジネスプリント二台は看番室と診療所で有効活用させていただきます。

『贈呈式』ご贈呈式は、相模中央交通株式会社様とセンター長

昨年十二月十日の贈呈式  
相模中央交通株式会社様とセンター長



社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団  
障がい者総合福祉施設 アガペセンター

- ・障がい福祉サービス事業所 アガペ作業所
- ・障がい者支援施設 アガペ看番館
- ・障がい福祉サービス事業所 生活介護事業  
相談支援事業(総合相談室)  
アガペサポートセンター
- ・障がい福祉サービス事業所  
座間市立もくせい園  
(〒252-0014 座間市栗原中央6-7-27)
- ・児童発達支援事業  
座間市サニーキッズ  
(〒252-0021 座間市緑ヶ丘1-2-1  
総合福祉センター(サニープレイス)内)
- ・障がい者グループホーム  
スマイル  
(〒252-0001 座間市相模が丘2-32-24)  
スマイルII  
(〒252-0001 座間市相模が丘2-32-2)

